

第 11 次総合計画（素案）に対する厚木市総合計画審議会からの意見等

- 第 11 次厚木市総合計画（素案）については、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との一体化を始め、「長期ビジョン」及び「アクションプラン」としての 2 層での構成など、効率よく、分かりやすく進化していると思います。

また、政策の 6 本柱についても、時代の要請に添ったものと考えます。「コミュニティ」については、「安心・安全」や「子育て・教育」等、全てにかかわる分野だとは思いますが、喫緊の大きな課題である超高齢化が進む社会において、「福祉・健康」分野は、人権意識の更なる普及、社会教育や生涯学習まで包括した市民協働なくしては成し得ない時代に来ていると思います。高齢者を始め、全ての市民が健康で普通に暮らせる日常を基盤として、各政策を効果的に進めるために、「福祉・健康・コミュニティ」を統合したことは、今後の 10 年を考えたときに期待できるものと考えます。

さらに、「コミュニティ」については、自治会の在り方についても大きな岐路に立っていると思いますので、行政側や役員側の意見聴取にとどまらず、一般住民の視点での検討もよろしくお願いします。

「1 策定の趣旨」の中にある「広域交通の要衝の地になっており、地理的な優位性をいかし」という部分については、最近は少し違和感を覚えています。東名厚木インターが厚木の発展に多大なる影響を与えたこと、七つのインターが企業誘致等に大きなプラスになり、市の財政にも大きく寄与することも期待しています。一方で、一般市民の通勤や通学、買い物やコンサート、旅行等へのアクセスを考えると、「広域交通の要衝の地になっており、地理的な優位性をいかし」と真に言えるのか疑問です。若い人の中には車を持たない選択をする人も増えつつあります。高齢者は終の棲家や車を手放す時期を模索します。厚木市の人口推移をみると、20 歳未満とその親世代の人口減少が顕著です。既に検討はされていることとは思いますが、人口減少に歯止めをかけるには、市内を中心とした「コンパクト・プラス・ネットワーク」とともに、リニアへ、羽田へ、都心部へなど、各地への多様なアクセスを見据えた鉄道等の整備にも更なる検討を期待します。

- 第 11 次総合計画の中で実施された市民との三つの意見聴取の機会はとても有意義であったと高く評価します。

本審議会では、将来都市像とその実現に向けたまちづくりを総合的かつ計画的に進められており、事業実施の効果や実績及び課題などは市民の共通する意見として評価していただいているものと感じております。

また、意見の中には「気軽に意見を言える場を増やし、行政と市民が協働していきたい」旨の市民からの要望もあり、今後の市政運営に市民の声をいかされていくことを期待します。

- 第11次総合計画の将来都市像については、最優先項目としては「安全・安心」ファーストで市民の命、財産を守り抜く安心政策の推進及び促進を図っていただきたい。

次に、市民参加で得られた「市民の共通した意見」がいかされた将来都市像【つながる未来都市像-A-T-S-U-G-I-】の検討案となっており、また、この検討案は地方創生2.0の「基本的な考え方」に基づいたものであり、未来へのメッセージとして“訪れる人を感動させ、全国・全世界から憧れてもらえる魅力ある厚木市”の実現を目指して目標達成へとつながることを希望します。

- 本市の特徴は「人と物が集まるまち」、「産業拠点のまち」、「自然豊かなまち」でつながる魅力的なまちであることを国内外へのPRを強化し、認知度を高め魅力度をアップする。

また、産業拠点のまちとして、今後更に発展が注目されているAI、IoT、DX事業に関する先進技術系、通信系、研究所、製造業他など知名度の高い大企業も集中して存在し、これらの産業拠点は地域資源力としても本市の大きな特徴や魅力であると捉えます。

本市の大きな三つの特徴をいかし、「安心して暮らせる生活環境の創生」「デジタル・新技術の徹底活用」「高付加価値の創出」「行政と市民との協働」など活用し、新たに生まれ変わる厚木のまちづくりを目指していただきたい。

- 国の動向についても「検討していく方向性」に「文化・芸術・スポーツなどこれまで十分には活かされてこなかった地域資源を最大限活用した高付加価値型の産業・事業を創出する」と掲げられており、本市の企業等が持つ最先端技術力やデジタル技術力を“地域資源力”としていかし、企業等の協力を得ながらコンパクトシティ&ウォーカブルな近未来のまちを創造し、全国や全世界から憧れてもらえる「新たな魅力あるまち近未来都市厚木市」を目指し地域活性化を図っていただきたい。

- 「まちづくりは人づくりから、人づくりはまちづくりから」と認識しており、市民参加で希望があった「行政と市民との協働」については、シビックプライドや関係人口を更に増やし、人とのつながりを創り地域交流を図ることを推進されたい。

- 特に若者から共通する意見として「交通」に関し、地域によってバス本数が少ない、バスの横移動や郊外への路線、交通混雑のほか、鉄道が一路線しかないといった課題を感じている意見が多く出されており、交通については市民の日常的生活路線の不便さが生じているため、新しい未来型交通手段等や循環型路線の新設などの検討も急がれる優先事項であると認識してお

り、市民の足となるべく交通移動手段の検討及び確保に努めていただきたい。

また、あつぎ未来創造プロジェクトの意見交換で「交通」については、アイディアソンの実施を希望する意見も出されていきました。なお、未来型交通路線となれば長期ビジョンとなることは想定されます。

「アイディアソンコンテスト」等を実施することで、斬新な発想などのアイディアを市民から生み出してもらい、最も有効な「全ての人に身近で優しい市民の足となる交通手段」への検討も効果的だと考えます。

- インフラ整備、例えば、昭和 50 年代に広く整備した下水道管等が老朽化し、陥没や地盤沈下の危険性があることから、整備計画を立てて全国的に起きている悲惨な事故が厚木市で起きないように、全市的に整備を進めてもらいたい。

このインフラ整備は、28 施策のどこに入るのか。19 都市・交通、20 道路、21 基盤整備なのか。または別の施策なのか。

- 子どもを含めた外国籍市民の増加が今後も考えられる。外国籍市民に対する案内やチラシなどの言語啓発の促進及び通訳などの人材確保、通訳機器などの整備等々、予算的措置も計画的に進める必要がある。
- 11 ページの(4)に、「誰もが気軽に芸術やスポーツに触れられる環境を整備する」とある。具体的な指標としては、20 ページの施策 16 スポーツのところで、公共スポーツ施設の利用者数としており、令和 17 年度の目標値を 180 万人としている。一部のスポーツ施設にはいまだにエアコン設備がなく、夏の高温、冬の厳寒期には利用者が利用を躊躇しています。また、利用者の年齢は幼児・小学生の子どもから、高齢者まで非常に幅があります。さらに、利用団体からもエアコン等空調設備設置の要望が多く聞かれます。

現状のままでは、到底この目標値は達成できないと思います。指標の目標値を達成するには、施設への空調設備設置は急務であり、必須要件であると考えますので、計画的に予算的措置を進めてもらいたい。